書式B3　（大学教員類型が使用）

＊受付番号

**学校心理学に関する研究業績一覧**

年　　月　　日

（西暦で記入してください）

一般社団法人 学校心理士認定運営機構

　　　　　　　　　　 理　事　長　殿

氏　名

「学校心理士」の資格認定申請にあたり、本研究業績一覧（5編以上）を提出します。

＊領域欄には、1から8までの番号（注３：P.6～7）を記入してください。P.20～21の説明をよく読み、必要な書類を添付してください。

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 領  域 | 著書、学術論文等  の名称 | 単著共著 | 発行  年月 | 出版社又は発行雑誌等の名称 | 執筆ページ数  (総ページ数) | 概　要 |
|  |  |  |  |  |  |  |

**＊学校心理学に関する研究業績一覧（書式B3）作成上の注意点**

・フォーマットをダウンロードし、記入例に倣って作成すること。

　書式が守られていない場合は、審査の対象外となります。

・著書、論文は通し番号をつけること。

・学術論文については、著者名のうち申請者名には下線を付すこと。

・概要欄に著書や学術論文等のそれぞれの説明を200字程度で記入すること。

・領域欄には1から8までの番号（注３：P.6～7）を記入すること。

・著書はISBN(国際標準図書番号)があること。

・学術論文は、学会等の機関誌、大学・研究所等の紀要でISSN(国際標準逐次刊行物番号)があるものに掲載された論文を対象とする。

・その他、出版社等が発行しているISSN(国際標準逐次刊行物番号)があるものに掲載された論文を対象とする。

・研究業績が掲載された表紙・目次・奥付のコピーを提出すること。

・電子ジャーナル等で冊子が発行されていない場合は，「出版社または発行雑誌等の名称」の欄に当該論文が確認できるURLを記載すること。

記入例（申請者：心理太郎）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 領  域 | 著書、学術論文等  の名称 | 単著共著 | 発行  年月 | 出版社又は発行雑誌等の名称 | 執筆ページ数  (総ページ数) | 概　要 |
| 1  2  8  8 | （著書）  １．学校心理学  ２．教授・学校心理学  （学術論文等）  3．中学生に対する個別の学習援助に関する研究：学習観と学習動機に着目して  小学生に対する学習援助 | 共著  単著  共著  単著 | 2011年11月  2012年10月  2011年12月  2012年6月 | 本郷書房  本郷書房  学校心理学研究  (日本学校心理学会)  第11巻）  教育心理学研究  (日本教育心理学会)  第60巻) | 47ページ～76ページ  (総279ページ)  総208ページ  pp165－170.  (総200ページ)  pp155－160.  (総200ページ) | 本郷一郎編著  著者　本郷一郎他7名  第4章｢心理教育的アセスメント｣ (47ﾍﾟｰｼﾞ-76ﾍﾟｰｼﾞ)を分担執筆。  (説明)本書では心理教育的アセスメントの目的と意義，子どもについてのアセスメント，子どもの環境のアセスメント，そして，アセスメントの方法として観察，面接と遊戯，心理検査等を取り上げ説明した。また，仮説の生成や目標の設定，援助計画の作成について説明した。さらに，心理教育的アセスメントにおけるインフォームド・コンセントやプライバシー保護についても解説を加えた。  心理太郎著  (説明)本書では教授・学習心理学について，まず基礎分野として学習の連合理論と認知理論，古典的条件づけとオペラント条件づけ，短期記憶，長期記憶，ワーキングメモリ，知識獲得，問題解決，社会的学習，動機づけを取り上げ解説した。また，応用分野として，学習や認知の個人差，学習面の不適応，学習援助，認知カウンセリング等を取り上げ解説した。  本郷一郎・心理太郎・学校良子  (説明)中学生1年生30名を対象に，個別の学習援助を週2日，3ヶ月間実施した。学習援助実施前と実施後に質問紙による調査を行った結果，実施前より実施後の方が，学習動機得点が向上していた。また，学習観においては解答を出すまでのプロセス重視の得点に向上が認められた。これらの結果に基づき，個別の学習援助のあり方について考察した。  心理太郎  (説明)算数の学習につまずきのある小学6年の児童を対象に，認知カウンセリングの手法を用いて，学習面の心理教育的援助を行った。援助は，内容理解の促進と解き方を覚えておくための学習方略の習得を目標として行った。言語的な説明を求めること，教訓帰納を毎回重視して援助を行った結果，正答率は上昇した。このような成果に対して，学校心理学の視点から考察した。 |